

使い方解説

学校名を記載します

修了時の姿や学校教育目標、市町村や校区の目指す子供像等から
小学校第1学年を修了したときの子供の姿を想定して設定します

〇〇小学校 架け橋期のカリキュラム

期待する子供像

- 友達と思いやりをもって関わり、学校生活を楽しむ
- 興味をもったことに対して、自分から調べたり、協力して考えたりする
- 言葉や体を使って思いを表現することを楽しむ
- 情熱をもち、粘り強く努力する

期 月	I		II		III		IV		V	
	1月上旬	5月中旬	6月上旬	夏休み	夏休み明け	10月中旬	10月下旬	冬休み	冬休み明け	春休み
発達の様相	・学校生活への期待や新たな環境への不安を感じる。 ・担任の教師への親しみをもつ。 ・新たな友達との人間関係が形成される。		・学校生活に慣れ、生活の見通しを自分からもつ。 ・交友関係が広がり、様々な友達と関わりながら学んだり遊んだりする。 ・学級の中で自己の役割を意識する。		・長期休業後の学校生活への不安を感じる。 ・学習内容を意識して、自覚的に学ぼうとする。 ・自分の思いや考えを主張できるようになる。		・個の違いに気付き競争心をもつ。 ・学習の中で得意不得意を感じるようになる。 ・友達の思いに気が付くようになる。		・集団の一員としての自分を意識できるようになる。 ・学級に愛着をもち、進級の期待と不安をもつ。 ・自分の成長を感じる。	
ねらい	・新しい学級への所属感や安心感をもつ。 ・学校生活の流れを知り、過ごし方を考えて生活しようとする。 ・学級の友達と良好な関係を築こうとする。 ・困ったことやしてほしいこと、思っていること等を言葉で伝えようとする。		・自分から見通しをもって生活できるようになる。 ・気分がよい発見したりしたことを友達と伝え合うようになる。 ・友達と一緒に、のびのびと生活できるようになる。 ・係や当番活動に意欲をもって取り組むようになる。		・2学期の学校生活への意欲をもつ。 ・授業や学校行事に対して、自分なりのめあてをもち、前向きに取り組もうとする。 ・自分の思いや考えをもち、担任や友達に伝えようとする。 ・学校行事の際は、先生の話を聞いて上級生の様子を見たりしながら、自分なりに理解し参加しようとする。		・自分や友達の違いを理解し、互いに協力しながら生活する。 ・考えを伝え合いながら、学びを広げる。 ・学校行事で競い合う楽しさを味わったり、自分の力を発揮し満足感や達成感を味わったりする。		・友達との学習、遊びなど、集団で行動することを楽しむ、協力しながら生活をする。 ・上級生になる自覚をもち学習や行事に取り組む。 ・1年間のできるようになったことを自覚し、自信をもって活動に取り組む。	
予想される児童の姿	生活面 ・学校生活への緊張や不安から、体調不良を訴えたり、教師に触れたりしようとする。 ・同じ園出身者での関わりを基に、クラスの友達に興味をもち交流しようとする。 ・休み時間や行事の際に異学年と交流し、安心感や憧れの気持ちをもつ。 ・教師の仕事に関心をもち積極的に手伝おうとする。 ・学校の生活の流れやルールに沿って生活しようとするが、切り替えがうまくできないこともある。		・学級の環境を目指し、自分たちが過ごしやすいように工夫しようとする。 ・クラスの友達と関わりあいたい助けようとする。 ・休み時間などにいろいろな友達と関わり、新たな交友関係を築こうとする。 ・学校生活の見通しがもてるようになり、片付けや次の授業の準備を自分からするようになる。		・夏休み明けは不安を感じる児童もいるが、学校に来る喜びを感じる児童もいる。 ・友達の考えに対して、自分の考えをはっきりと伝えることができるようになる。 ・自分の思いや友達の思いが衝突した際には自分たちが話し合せて折り合いを付けようとする。 ・学校行事の際は、先生の話を聞いて上級生の様子を見たりしながら、自分なりに理解し参加しようとする。		・活動の際に、よりよい方法を友達同士で共有しながら生活する。 ・自分と周りを比較して、競争心や優越感、劣等感をもちたりする。 ・集団の中での自分を意識するようになる。 ・友達の思いを理解し、同じ目的に向かって協働しようとする。 ・学校での活動におもしろさを見だし、積極的に取り組もうとする。		・クラスの友達と過ごすことに心地よさを感じ、よりよいクラスにするために自分に何ができるか考えようとする。 ・新しいことにも、友達と一緒に意欲的に挑戦してみようとする。 ・学校生活に慣れ、進級に対する自信や期待をもつ児童がいる一方、慣れ親しんだ学級との別れを不安に感じる児童もいる。	
	学習面 ・学習に対して興味や関心をもつが、興味や関心がないことに対しては意欲的に取り組めないことがある。 ・自分の考えを伝えたいと意欲的になる児童がいる一方、間違えることの不安から消極的な態度を取る児童もいる。 ・初めて使用する道具や教材の使い方が分からず、とまどうことがある。		・考えたことを自由につぶやいたり、教師や友達の発言に応答したりする姿が見られる。 ・分からないことを友達に聞きながら解決しようとする。 ・ペアやグループワークの中で、自分の思いや考えを友達に伝えようとする。 ・学習内容の難しさを感じるようになるが、自分で解決しようとする。 ・授業で学んだことを生活に生かそうとする。		・興味があることに対して、自分から調べたり、それを伝えようとする。 ・授業で学習したことに関心をもち、休み時間や帰宅後に継続して取り組む。 ・難しい問題にも意欲的に挑戦しようとする。 ・アイデアを出したり、友達と楽しさを共有したりしながら課題を解決しようとする。		・休み時間や、授業の中で見つけたおもしろいことを友達と共有する。 ・興味があることに対して集中して話を聞いたり、取り組んだりする時間が長くなる。 ・難しい問題にも挑戦しようとするが、苦手と感じる学習に対して積極的に取り組むことができないことがある。 ・これまでの学習の経験を基に、自信をもって友達に自分の思いや考えを伝えるようになる。		・自分で興味をもったことを、自宅や学校で調べてまとめたり、友達と共有したりする。 ・集団で一つのものをつくり上げたり、チームで競ったりすることに楽しさを感じ、自分の役割を果たそうとする。 ・次年度以降の学習内容に興味をもったり、挑戦しようとする。	
環境の構成	園で慣れ親しんだ歌や手遊び、読み聞かせ等を取り入れ、安心感をもてるようにする。									
	授業時間を柔軟に設定する。		生活の流れを視覚的に示す。							
	友達と関わりやすい座席配置や、友達との教材の共有を意図的に行う。		ペアワークやグループワーク等、考えを伝え合う場面を意図的に設定する。							
	教師と一緒に学級の仕事をやる場面を設定する。		係や当番活動の必要感や、役割を果たしたことへの達成感を味わえるようにする。							
学校生活に対する自分なりのめあてを意欲できるようになる。					めあてに向かって、児童が自分で活動内容や方法を決めたり選んだりできるようにする。					
児童の思いを受け止め、安心して伝えられるようにする。					児童同士が思いを伝え合う時間を十分に確保し、自分たちで折り合いを付けられるようにする。場合によっては教師が児童の思いを代弁し、相互理解を促す。					
1年間の自分自身を振り返り、成長を実感できるようにする。										
方法としての教師	・教師の仕事を手伝いたいという思いを受け止め、感謝の気持ちを伝えたり、友達と協力して取り組めたことを称賛したりする。◆ ・児童の緊張や不安に寄り添うとともに、緊張や不安から来る行動を受け止めるようにする。◎ ・考えを伝えたいという思いを受け止めることにも、他の児童の存在を意識できるようにする。◆		・学校生活をよりよくするために行動している児童の姿に注目し、周りを巻き込みながら教室環境について一緒に考える。♪ ・児童が生活の中から見つけた気付きや発見を大切に様々な教材を関連付けながら学べるよう支援する。◆		・新学期への児童の期待や不安を受け止め、教師自身の休み中の話を紹介したり、児童の話を聞いたりする。◎ ・課題に対して、正解や、やりやすい方法を一方的に与えるのではなく、一緒に取り組み考えようとする。♪		・児童の気付きや発見を肯定的に受け止め、喜びや驚き、感動等を分かち合う。♥ ・児童が自分で判断し、勇気を出して行動したことを認めたり、周りの児童とその行動の意味を共有したりする。★		・進級に対する不安を受け止め、これまでの児童の成長を認め自信につなげる。◎ ・児童が自分の学び方を振り返り、学びを広げたいけるように、気付きや発見を肯定的に受け止める。◆	
	方法としての教師 ◆子供の活動の意味を理解する ♪子供の目標に立つ ◎思いを感し共鳴する ★学が姿や関わる姿のモデルとなる ◆必要な人に対して必要なときに必要な援助を行う ◎子供が精神的に安定するためのよりどころ									
主な行事や学習内容	・入学式 ・1年生を迎える会		・通学路を歩こう ・公園で夏を探そう		秋の校外学習 避難訓練		運動会 ・公園で秋を探そう ・持久走大会		・6年生を送る会	
	どうそよろしく(園)からこうだいすき(生)うたっておどってなかよく(園)		こんなことがあったよ(園)おはなしくり(算)なつがやってきた(生)		いきものとなかよし(生)のしいあきいっばい(生)おあそび(俳)		たのしいあきいっばい(生)にぶんでできるよ(生)ボール投げゲーム(俳)		ふゆをたのしもう(生)もうすぐ2ねんせい(園)いいこといっぱい一年生(園)	

「発達の様相」～「方法としての教師」は、このままでもお使いいただけます。

※ただし、定期的に幼児教育施設と協働で見直しをしましょう。夏休みに小学校が中心となって進められるとよいでしょう。

本カリキュラムは、各地域・学校等の実情に合わせて変更可能です。お使いいただいた感想やご意見、おもしろかった実践などありましたら、ぜひ群馬県幼児教育センターまでお知らせください。

架け橋プログラムの推進に向けて、共によりよい接続の在り方を考えていきましょう！

各期の学校行事を記載します

予想される児童の姿に関わる各教科の単元名を記載します